

日本英学史学会中国・四国支部

ニューズレター

No.109 & No.110 合併号

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

令和 6 年度 第 1 回 (通算 89 回) 研究例会の報告



安田女子大学 1 号館前

2024 年 6 月 1 日 (土)、安田女子大学 (広島市安佐南区安東 6-13-1) において、令和 6 年度支部総会、および第 1 回 (通算 89 回) 研究例会を開催しました (参加者 13 名)。ご参加くださった皆様、会場をご準備くださった安田女子大学の松岡博信先生に篤く御礼申し上げます。

当日の研究例会の流れと、参加者の感想を掲載します。

◇◇◇

支部総会 (13:20～13:50)

議長選出、令和 5 年度活動報告・会計報告・会計監査報告、令和 6 年度活動計画、ほか

開会行事 (14:00～14:05) 支部長挨拶 馬本 勉 (県立広島大学)

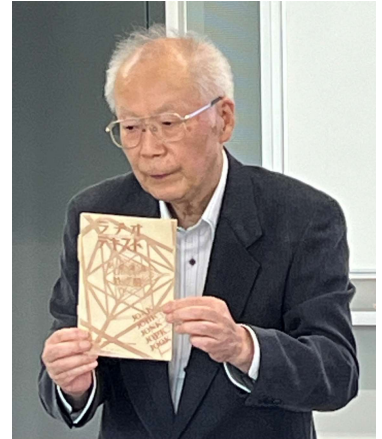
研究発表① (14:05～15:15)

「昭和初期ラジオ受験講座と岡田実磨」

田中 正道 (広島大学名誉教授)

【発表を終えて】

以前から気になっていた広島県出身の受験講座界のスーパースター岡田実磨について参加者の皆様に紹介できたことを喜んでいます。発表の途中テキスト（昭和 7 年発行）を回覧させていただきました。表紙に 5 つの放送局のコールサインが印字されており放送エリアがたどころに分かるわけで、これらについて皆様にきちんと説明すべきだったと反省しています。（河村先生がインターネットで直ちに検索して、耳打ちして下さいました。）参加者の皆様が拙い口頭発表を正確にご理解いただき貴重な質問、提言を頂戴しました。今後の参考にさせていただきます。



【参加者の感想】

◆久しぶりに田中先生のユーモアあふれる田中節を聞けて楽しかった。岡田実磨の指導方針の5文型活用は、やはり日本人が英語を理解する上で必要だと思われ、妥当な指導だと納得した。教材内容に軍国主義のものが反映されていて、時代を感じた。講座に限らず、教科書等にも政治的な意向がにじみ出てきやすいので、警戒しなければと感じた。(JH4DGW)

◆今まで余り焦点が当てられてこなかったラジオ英会話講座の歴史、受験英語講座の歴史に焦点を当てた興味深い内容の発表でした。特にその講師の岡田実磨の研究は広島の地域性を反映したもので良かったと思います。特徴として岡田は、五文型を強調し重視したという分析はとても興味深かったです。当時のテキストをすべて所有されているとのことですのでさらなる発表を期待しています。(YH)

◆田中先生のご発表、「昭和初期のNHKラジオ「受験講座」と岡田実磨」。実磨担当の「和文英訳」演習は五文型を中心に「和文英訳」練習を行ったということですが、実に外国語を読み書きするには、語彙と語順の知識が欠かせません、その意味で有益な演習だったと思われます。「和文」自体については、当時の日本の時代精神を色濃く反映していて、これを見て、戦後間もない昭和20年代後半の新制中学校で、あるとき英語の先生から「N君よ、民主主義になったんだけどどうもよくわからない」と語りかけられた言葉の意味がやっと分かりました。ありがとうございました。(Qats)

◆昭和初期のラジオ「受験講座」の「和文英訳」を担当した岡田実磨について、当時使用されたテキスト等の貴重な資料を駆使してのご発表を興味深く拝聴いたしました。和文の主語と動詞に注目させ、その文が英文の五文型のどれに当たるかを意識させて英訳させるという指導法は今でも有効な方法であると思いました。岡田はたくさんの受験参考書も執筆しているようですので、この方面のご紹介も期待しております。(E. Woodhouse)

◆昭和初期のラジオ「受験講座」と岡田実磨に関する貴重な資料に基づいた大変興味深いご発表でした。特に、和文英訳で五文型の習得に焦点が当てられていること、和文英訳の問題がまさに時局を反映した題材であり、それにはまた深い理由があったというご指摘が記憶に残りました。次回の機会には、テキストの実物をもっとたくさん見せていただきたいと思います。(安部規子)

◆ 6. 講座で出題された問題例 (抜粋) Kinds of Sentences

種類4 S + V + O + C 種類5 S + V + O + O

現代文法書では、第4文型と第5文型が逆転していますが、どのような推移で逆転したのだろうか

和文英訳練習

(1) 第一の型に属するもの

(ロ) 日本の満州人に対する好意は永久に記憶されると思う。

この、と思う、はどのように扱われるのだろうか。

(2) 第二の型に属するもの

(イ) 私は君の才能には驚いたが、君の不規則な習慣には更に驚いた。

不規則な(習慣)を irregular habits としているが、コロケーションとしては
a person of irregular habits 不規則な習慣[生活]の人

irregular eating [sleeping] habits 不規則な食[睡眠]習慣

不規則な(習慣)を irregular habits を、このまま使用できるのだろうか。

(3) 第三の型に属するもの

(イ) 私は郷里に居る時分には特別に英語を三年以上も習ひました。

郷里 を native place としているが、ここは、one's native place が実用ではないだろうか。

(池本康彦)

◆テレビやインターネットによる語学番組がなかった時代、ラジオ講座は重要な英語学習資源であったことがよくわかりました。期間限定の放送時間・回数の中、当時の中学生はどのような気持ち、意気込みでラジオ放送に耳を傾けていたのか、大いに興味を持ちました。(深澤清治)

◆「受験講座界のスーパーstar」岡田實麿のラジオ講座にまつわるお話を大変興味深くうかがいました。テキストの無い放送回があったことに驚きましたが、聴き手の側が集中し、必死に学ぼうとした姿勢があつてこそ、と思いました。

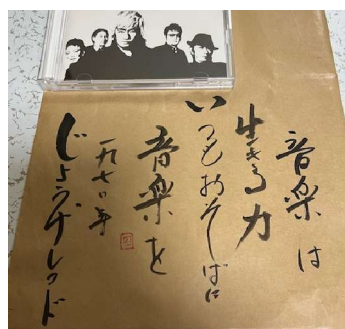
地域連携や高大接続のご縁があり、2年ほど前から広島県府中市へたびたび出かけています。市制70年を迎えた府中市に、岡田實麿の生まれた上下町が合併して20年。庄原市から府中市中心部へ出向くには、高速尾道松江道が便利ですが、帰りはのんびり上下経由で戻って来ことも多いです。そんなときに立ち寄るのが、岡田實麿の生家であり、白壁の街の中央に位置する上下歴史文化資料館。ここは實麿の妹・美知代(*Uncle Tom's Cabin*の翻訳者、田山花袋「蒲団」のヒロインモデル)の資料が充実していますが、實麿の著した参考書も展示してあります。

田中先生のご発表をお聞きして、岡田實麿・美知代の英学をさらに知りたくなり、今後も上下通いを続けたいと思いました。(Horse)

上下にはまだまだ面白い場所があり、
訪れるたびに新しい発見があります。

たとえば、じょうげレコード

<https://jyoge-ippin.jp/company/313/>



研究発表② (15:30~16:40)

「明治・大正期の英文宮島案内」

馬本 勉 (県立広島大学)

【発表を終えて】英国の写真家ハーバート・ポンティングは、明治 30 年代に何度か日本を訪れ、広島宮島の宮島では白雲洞旅館に宿泊したと自著に記しています。その白雲洞は、後にミカドホテル、宮島ホテルへと変わっていきますが、ミカドホテルは明治末年に、また宮島ホテルは大正期に、それぞれ外国人観光客へ向けた英文ガイドブックを発行しています。ガイドブックの英語は誰が書いたのか、他の資料との比較を通して考察し、現時点での推定を紹介しました。今後も調査範囲を広げ、宮島の英学に迫っていきたいと思います。貴重なコメントの数々をありがとうございました。



【参加者の感想】

◆馬本先生のご発表で、県立広島大学に宮島学センターがあり、宮島を学術研究することが行われていることを初めて知りました。英学のかかわり方は、宮島を英語で発信する側面にプライオリティがあり、今後の活動の拡大とますますの発展を楽しみにしています。(Qats)

◆かつて宮島にあったミカドホテル、宮島ホテルの英文ガイドブックについて実に多くのことを学ばせていただきました。それぞれのガイドブックの「関連性」の追及は難事業、馬本先生のご苦勞が偲ばれました。ご発表を拝聴していて雨森信成が執筆した横浜グランドホテルの英文ガイドブック(1911)との「関連性」が気になり始めました。(もみじまんじゅう)

◆まず、戦前のあまりインバウンドなどがない時代から、外国人を意識した英文の案内書があったことに驚いた。どの名所でもというわけではなく、宮島だからだろうと思った。なかなかしつかりした英文で、作った人の学識が感じられる。現在は宮島に限ったものはないようなので、余計に貴重なものに思われた。(JH4DGW)

◆宮島紹介パンフレットの英文の分析で、これも広島という地域性を反映していて興味深いご発表でした。内容的には多くの新発見がありとても興味深かったですが、その英文は果たして誰の手によるものか、さらなる調査の進展を楽しみにしています。内容から判断しますと、日本の宗教、宮島の歴史に詳しい日本人でしかも英語の達人の手によるものであるとも推測できます。ただ、当時の英米人の Japanologist の日本研究の英文も内容的に素晴らしいものがあります。例えば、“Miyajima, where none are ever allowed either to be born or to be buried” (Things Japanese, 1890, p. 369) は発表の英文と重なります。ほかにも手元の史料では「この聖地では生まれることも死ぬことも許されない〜」(『ミットフォード日本日記』p. 164) とあり、重なる部分があります。関連性があるのでしょうか。さらなる研究の進展を楽しみにしています。(YH)

◆宮島にあり、外国人も利用したという白雲洞旅館(後のミカドホテル、宮島ホテル)の歴史を知ることができ、大変勉強になりました。また、今回のご発表のメインテーマである同ホテルが発行した英文ガイドブックの執筆者やその成り立ちについてまだ十分な解答が得られていないようです。その解答が出るのを楽しみにしております。(E. Woodhouse)

◆宮島が明治期から外国人を惹きつけ、外国人向けの豪華ホテルが英語の案内ガイドブックを完備していたことを、馬本先生の長年にわたる調査結果の蓄積から示していただきました。宮島は、長崎の旧外国人居留地に位置するグラバー園等とは異なり、外国人が作りだしたものでなく、美しい自然や立地、厳島神社等の観光資源の魅力を自ら発信してきた点がユニークだと思いました。当日いただいた3つ折りにするとかわいい舞妓さんが表紙になるカラー冊子とても気に入りました。(安部規子)

◆観光客用の一時的な説明には見られない貴重な裏情報が得られたご発表でした。今と同様に押し寄せる海外からの観光客に対応するために先人がどのような努力をされたのか、強い印象を受けました。ホテルと警察でしか英語が通じないことも興味深く思いました。(深澤清治)

◆*In Lotus-Land Japan, Some Information Concerning Miyajima* が母語話者による文章と推測されるに対し、*Guide* は母語話者によるものではないように思われる。

In Lotus-Land Japan

特徴1 結束性：接続詞の配置により文の因果関係が緊密である

特徴2 推論：文章による既知の知識を利用して、明示されていない事柄を予測する

Then [many lights came into view],
and [we drew alongside a little stone pier],
but [by the time I had engaged a coolie, and I had my luggage loaded on a borrow, half an hour had gone],
and [we started off through the village to the Haku-un-do Hotel in the dark].
[I could see but dimly, **therefore**, all the beauty we were passing, **for** the moon had not yet risen above the island's crest].

船旅も目的地に近づいたころには、[文]

客船で波止場に近づき、目に入るのは夕暮れを背に灯る民家の灯りである

やがて、[文]

客船が波止場に横付けにされたのであるが、乗船している we も必然的に横付けになる

しかしながら、[文]

横付けされたなら手際よく出立する手筈であったが、(そうもいかなかった)

手間取ったおかげで、[文]

支度に30分かかり、暗い夜道を白雲洞旅館へと向かう羽目になる

夜の暗さゆえに、[文]。そのわけは、[文]

暗くて見えないぼんやりとした景色を美しいと表現しているのは、精緻化推論

Some Information Concerning Miyajima

特徴1 一貫性：統一した文脈を保つ

特徴2 結束性：接続詞、代名詞、省略

Every traveller passing through Japan **and** every person living in Japan should visit Miyajima at least once, **and** judging by the testimony of those who have tried it, the oftener the visit is repeated the more enjoyable it becomes.

There are many reasons for visiting this place, the chief one of which is that
it is regarded by the Japanese as one of the three places most noted for beautiful scenery, so-called San-kei,
and is by far the most easily accessible of the three to persons travelling through the country by rail, being
on the direct line from Nagasaki or Moji and Shimonoseki to Yokohama or Tokyo,
while the other two, Amanohashidate and Matsushima are by far out of this regular route of travel

再記

Every traveller passing through Japan and every person living in Japan should visit Miyajima at least once,
一貫性：海外に向けての旅行案内なので、すべての海外旅行者がテーマになるのは自然で、そればかり
か、日本に暮らす人々（生粋の日本人もさることながら、日本在住の外国人でまだ松島を観光旅行
していない）も一度は松島を旅行してはどうか。

主語の名詞句の平衡と韻律(prosody)：Every traveller passing through Japan
and every person living in Japan

and judging by the testimony of those who have tried it, the oftener the visit is repeated the more
enjoyable it becomes.

一貫性：観光旅行をした人の証言から、観光をするたびに、さらに楽しいものになるということだ
・・・ should visit Miyajima at least once. を推薦する根拠を示している。

結束性：it=the visit, 代名詞は参照点を示し情報量は少なくその分、それ以外の表現に注意を集中させ
ることができる。

There are many reasons for visiting this place,

一貫性：（観光旅行者の証言に加えて）観光を勧めるわけは他にもあると述べて、推薦理由を追加して
いる。

結束性：this place=Miyajima

the chief one of which is that

一貫性：数ある推薦理由のうちまず一番にくるのは、・・・具体例を挙げている

結束性：one=(a) reason

it is regarded by the Japanese as one of the three places most noted for beautiful scenery, so-called San-kei,

一貫性：理由その一、日本人が日本三景の一つと認めている

結束性：it=Miyajima, one=a place

and is by far the most easily accessible of the three to persons travelling through the country by rail, being
on the direct line from Nagasaki or Moji and Shimonoseki to Yokohama or Tokyo,

一貫性：理由その二、鉄道旅行の便がよい

結束性：等位接続詞 and の直後にあるはずの it(=Miyajima) の省略（伝統文法）

while the other two, Amanohashidate and Matsushima are by far out of this regular route of travel

一貫性：理由その三、日本三景の残り天橋立、松島は不便である

結束性：while とは、便利な宮島と比べて、他の二つは・・・と続く。

これと比較して、

A Short Guide to Miyajima and Neighbourhood (Guide)

1 Miyajima is one of the San-Kei, or Three Beautiful Scenes of Japan

Three Beautiful Scenes of Japan について

scene: a view of a place as you see it (LDOCE) なので、native はこう表現しないのではないだろうか

例えば、日本三景 the three most scenic spots [views, places] of Japan

2 The other two are Amano-hashidate, ... mainland; and Matsushima,

semicolon (;) について、

The other two are Amano-hashidate and Matsushima. なので、この位置に(;)はこないのではないだろうか。

comma (,) 及び and, or について

3 ... by rail, being on the direct line from Nagasaki, or Moji and Shimonoseki, to Kobe, Yokohama and Tokyo,

観光旅行客は、九州鉄道の長崎（駅）あるいは門司（駅）で乗車し、下関で山陽鉄道に乗り継ぎ、神戸、横浜、東京に乗り換えなしに行ける

... by rail, being on the direct line from Nagasaki or Moji and Shimonoseki to Kobe, Yokohama or Tokyo,

コンマ(,) が省かれて、and が or に代わるのではないだろうか。

(池本康彦)

※池本先生の詳細な分析に感謝いたします。(馬本)

◇◇◇

閉会行事 (16:45~16:50) 副支部長挨拶 松岡博信 (安田女子大学)



懇親会 (17:30~19:30)

会場近くの人気のイタリアン

「パパスママス」にて

(懇親会参加者 12 名)



【研究例会全体についてのコメント】

◆会場のお世話をいただいた松岡先生、研究例会の企画・運営に携われた馬本、河村先生のご尽力のおかげで内容の充実した参加しがいのある研究例会でした。懇親会も大いに盛り上がりました。やはり対面での語らいは楽しいですね。(もみじまんじゅう)

◆田中先生が言われた、「安田グランドホテル」の表現がぴったりの素晴らしい会場をご用意いただき、ありがとうございました。自分の学生時代に過ごした陸軍師団の兵舎の改造校舎を思い出すにつけ、隔世の感慨に浸りました。

また、懇親会も素晴らしく、料理の質、量ともに満喫しました。この会を通じてお互いの理解がより深まったと感じています。コロナで長くリモートが続きましたが、会員同士のふれあいができる対面の会が、昨年の庄原からできるようになったことを喜んでいます。(JH4DGW)

◆いつもお世話になっています。特に意見等はございません。12月の例会、忘年会も楽しみにしています。ありがとうございました。(YH)

◆整った発表資料で大いに助かりました、ハード・オヴ・ヒアリングを乗り越えることができました。また会場の1号館フロントで記念撮影後、下り階段でよろけたときすぐさま手を差し伸べて支えてくださった先生、会場ではマイク等、いろいろとご迷惑をおかけしました。ありがとうございました。(Qats)

◆お天気にも恵まれ、安田女子大のきれいな教室で気持ちよく研究発表を聴くことができてよかったです。(E. Woodhouse)

◆いつもすばらしい会場をご用意下さりありがとうございます。(安部規子)

◆久しぶりに参加してよかったと思いました。日本人がどのように英語と格闘してきたのか、その姿勢に感動しました。(深澤清治)

◆1ページ目(と7ページ目)の集合写真は、いつもと少し雰囲気が違うことにお気づきかと思えます。例会会場の安田女子大学1号館はとても美しく、青い空と白い雲が映し出された、まさに「映える」建物でした。素晴らしい会場に集った皆さんと、ちょっといい感じの撮影タイムとなりました。(Horse)



<https://www.yasuda-u.ac.jp/>

安田女子大学ウェブサイトのトップを飾るのは、この建物

令和 6 年度第 2 回 (通算 90 回) 研究例会の報告



清水ヶ丘高等学校 2 号館 選択教室

2024 年 12 月 14 日 (土)、清水ヶ丘高等学校 (広島県呉市青山町 2-1) において、令和 6 年度第 2 回 (通算 90 回) 研究例会を開催しました (参加者 15 名)。ご参加くださった皆様、会場をご準備くださった清水ヶ丘高等学校長の中舛俊宏先生に篤く御礼申し上げます。

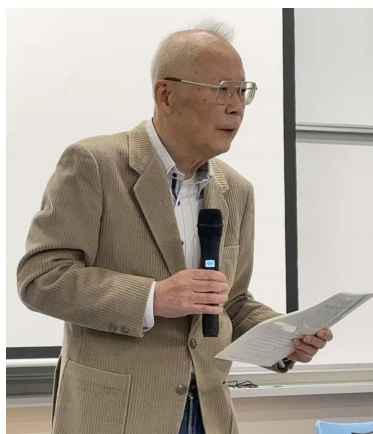
当日の研究例会の流れと、参加者の感想を掲載します。

◇◇◇

開会行事 (14:00~14:05) 支部長挨拶 馬本 勉 (県立広島大学)
会場校挨拶 中舛俊宏 (清水ヶ丘高等学校)

研究発表① (14:05~15:15)

「円本の夏目漱石」



田中 正道 (広島大学名誉教授)

【発表を終えて】

文学は金持ちの道楽 (?) であったが、円本が刊行されてからは庶民にもアクセス可能となり時代が大きく変わった。本発表ではまず円本以前の『吾輩ハ猫デアル』(3 冊) が 2 円 75 銭もしたことを示し、それが円本では 1 冊に 13 もの作品が収録されていることを紹介した。

庶民は円本 1 冊を買えば 10 冊以上の本を買った気分になり、お得感を感じることができた。新聞広告を見て予約購入することになっていたとのことなので、当時の新聞広告を探し出したいというのが発表者のこれからの願いである。

【参加者の感想】

◆夏目漱石の英学史的見地からの研究だけでなく、文学論まで内容の濃い発表でした。それにしても田中先生の研究意欲・発表姿勢に見習いたいと痛感いたしました。(YH)

◆円本の代表格である改造社の『現代日本文学全集』のうち、小宮豊隆が編集した「夏目漱石」の紹介をいただきました。田中先生が称賛されるように、『三四郎』の主人公三四郎のモデルと言われ、本人も漱石の一番弟子を自認する小宮の解説は敬愛にあふれるものでした。小宮が高く評価する『道草』と小宮の手になる評伝『夏目漱石』は未読ですので、これから読んでみたいと思います。

(E. Woodhouse)

◆「円本」について全く知りませんでした。夏目漱石の作品もあまり読んでいませんし、小宮豊隆も知りません。田中先生、大いに勉強になりました。田村先生との質疑応答も大変深いものを感じました。円本は文学を庶民にも手の届くものにし、その嚆矢が「改造社」とのことでした。私の本棚にも改造社のものがあり、帰宅後改めて手に取ってみました。(安部規子)

◆ご家族で大切にされてきた貴重な円本にまつわるお話をお宝資料とともにご発表いただき勉強になりました。小宮豊隆による「漱石先生小傳」や著作年表は初めて見るお宝資料でした。ありがとうございました。(末國和子)

◆円本の歴史をお話し頂き興味深くお聞きしました。小宮豊隆氏の小傳など資料をたくさん頂きましたので、後ほどゆっくり読ませて頂きます。円本の値が現代ではどれほどの価格なのか知りたいです。(松島智重子)

◆夏目漱石のことは、いつも折をみて知ることはうれしいので、参加させていただきました。田中正道先生は貴重な資料を沢山用意してくださり、大変有難く受けとらせていただきました。小宮豊隆の『夏目漱石集』の後に」は興味深く、じっくり読ませていただきます。ありがとうございました。(岩田泰子)

◆ご発表をうかがって、現代日本文学全集『夏目漱石集』をネット古書店で入手しました。同書に「十九編」と「十九篇」が混在していること、一円の書に漱石 13 作品が収められていること、門下の小宮豊隆による解説や年表が充実していること、などなど、田中先生のお話で初めて知ったあれこれを思い、多くの読者を得たことに納得しています。私は漱石作品をすべて読んだわけではないのですが、『吾輩は猫である』と『三四郎』に惹かれたのは、そこに英学の気を感じたからかもしれません。英学の徒たる私たちは、やはり漱石を読まなければ！との決意を新たにしました。(Horse)



研究発表② (15:30～16:40)

『昭和三十年度二年英語週案綴』(その2)

ー昭和 30 年代中学校英語教育実践史ー

隈 慶秀 (福岡県立明善高等学校)

【発表を終えて】

「昭和三十年度二年英語週案綴」は、松村幹男先生が、広島市立国泰寺中学校で教鞭をとっていた時の英語授業週間進度表である。前回は『英学史論叢 26 号』の研究ノートでの誌上発表であった。今回は「英語週案綴」の中で使用された教科書 STUDY YOUR ENGLISH とともに授業内容などを具体的に明らかにできればと思っていたが、話題が多岐にわたり、焦点を絞ることが次回の課題である。ただ参加者のみなさまから松村先生の研究熱心さのエピソード、英語教科書のマニュアルの使用について、また昭和 30 年当時の中学校の英語教育の状況などを聴くことができ、今後の研究のヒントとなったことは大きな収穫であった。



【参加者の感想】

◆とても緻密な「英語週案綴」は中学校英語教育実践史の「お宝資料」であると思いました。授業の週間進度表を毎週教科主任に提出すること、校長以下の印鑑が附されて返却されていたことを知り、「明治時代」かと錯覚しました。(もみじまんじゅう)

◆松村先生の愛弟子、隈先生ならではの発表であった。直接ご自宅を訪問し手に入れた昭和 30 年ごろの教案分析であった。当時の多くの英語教員は正規の訓練を受けたものが少なかった。その中でも英語で教案を書いたり専門用語を使ったりしていた松村幹男先生の英語教員としての実力は突出していたであろうことがよく分かった。(YH)

◆松村幹男先生が広島市立国泰寺中学校で教鞭をとっておられたときに作成された「昭和三十年度二年英語週案綴」について詳細な紹介をいただきました。その「週案綴」を通して、松村先生が生徒に対していかに英語に興味を持たせるか、いかに英語力をつけるか、いかに英語力を伸ばすことができるか、その方策に常に腐心されていたかがよくわかり頭の下がる思いでした。(E. Woodhouse)

◆隈先生が松村先生との交流の中で入手された貴重な資料「英語授業週間進度表」に基づくご発表でした。フロアの先生方から松村先生の思い出や先生の優れた教育実践について多くのご発言があり、またそれにとどまらず、新制中学校発足間もない昭和 30 年代の学校制度、英語教育の実態、英語教員養成等へ話題が広がっていき興味深かったです。(安部規子)

◆松村先生の英語週案綴に基づいた研究発表、大変興味深く拝聴しました。私も、自宅で小学生から高校生まで英語を教えているため、松村先生の生徒や授業に対する取りくみに触れ、改めて身の引きしまる思いがしました。こういう資料の掘りおこしにも関わられた隈先生にも感謝です。(末國和子)

◆隈先生の問題意識の中に、常に恩師・松村幹男先生の姿があることを改めて思うご発表でした。学習や指導の実践史研究の難しさは、その記録の多くが個人的なものであり、手書きであり、長きにわたる保存を意図していないため残っていない、といった理由を挙げることができると思います。この

「実践史」研究を精力的に推し進められた松村幹男先生が、実践の記録を丁寧に残されたことは象徴的だと感じました。松村先生が意図されたかどうかは分かりませんが、ご自身の記録が後進の研究を刺激し、推し進める資料となったこと、そしてお弟子筋の隈先生によってその分析が加えられたことに、強く感銘を覚えるご発表でした。ありがとうございました。(Horse)

◇◇◇

閉会行事 (16:45～16:50) 副支部長挨拶 松岡博信 (安田女子大学)

忘年懇親会 (18:00～20:00) 呉阪急ホテルにて (懇親会参加者 12 名)



会場校挨拶
(中舛校長先生)



閉会挨拶
(副支部長・松岡先生)



史跡見学 (12 月 15 日 (日) 10:00～12:30)

例会の翌日は、呉駅周辺にある「呉の歴史を学ぶ」場所へ見学に出かけました。(参加者 6 名)

- ・大和ミュージアム (呉市海事歴史科学館)
- ・鉄のくじら館 (海上自衛隊呉史料館)

海軍の街であり、映画「この世界の片隅に」の舞台でもある呉の地で、平和を思う時間を過ごしました。二日間にわたり、中舛先生には大変お世話になりました。ありがとうございました。

【研究例会全体についてのコメント】

◆馬本先生、河村先生、中舛先生のご尽力により、昼の部と夜の部の両方に「最高で一すッ！」と叫びたいとなりました。本当にありがとうございました。(もみじまんじゅう)

◆懇親会は個室でゆっくり話ができて良かったです。2 日目の史跡見学 (大和ミュージアムとてつのくじら館) も印象的でした。会場等を手配して頂いた中舛先生に感謝です。ありがとうございました。(YH)

◆呉を訪れるのは初めてでしたが、中舛先生が校長を務めておられる清水ヶ丘高等学校の清潔感溢れる一室で研究例会と阪急ホテルでの懇親会に参加できて良かったです。中舛先生には心よりお礼申し上げます。(E. Woodhouse)

◆海軍兵学校のゆかりの地で英学史学会が行われる意義を感じながら拝聴いたしました。また、清水ヶ丘高校が教育の場として広く用いられ、在校生も活躍されているとの校長先生のお話をうかがい、応援したい気持ちになりました。(末國和子)

◆今回清水ヶ丘高等学校という素晴らしい会場をご提供いただき、お世話下さった中舩俊宏校長先生には深く感謝いたします。初めて当地を訪問した私にとりまして、12月15日の史跡見学(大和ミュージアムと鉄のくじら館)も得難い機会でした。ご計画・ご案内下さった馬本先生、河村先生、中舩先生ありがとうございました。(安部規子)



令和6年度支部総会(議事録)

令和6年度支部総会は次の通り実施され、議題はすべて承認されました。

日時：2024年6月1日(土) 13:20~13:50

会場：安田女子大学(広島市安佐南区安東6-13-1)

議長：深澤清治先生

議題：1)『英學史論叢』第27号 pp.39-41 にもとづく令和5年度活動報告

2) 令和5年度会計報告・会計監査報告

3) 令和6年度活動計画

令和5年度会計報告・会計監査報告

令和5年度会計報告・会計監査報告を掲載します。会員の皆様には、毎年会費の御納入をいただき、感謝申し上げます。

収入の部		支出の部	
繰越金	553,013	通信費	14,650
年会費*	85,000	印刷費(紀要)	97,526
紀要掲載料	33,000	印刷費(ポスター)	200
寄付	3,000	会場費	47,000
銀行利子	1	事務費	660
		事務用品	327
収入合計	674,014	支出合計	160,363
		次年度繰越金	513,651

* 年会費 28口(前年度不足分含む)

以上、ご報告申し上げます。

2024年5月29日 会 計 安部 規子 ㊞

各位

本学会の会計を、収入並びに支出に関して、それぞれ関係書類及び領収書等により監査いたしました。その結果、会計報告の通り、全て適正、正確に会計処理ができていることを確認いたしました。

以上報告いたします。

2024年5月31日 会計監査 野村 勝美 ㊞
会計監査 平本 哲嗣 ㊞

英学史情報ひろば

- ◇森 悟 (2024).『評伝 佐川春水 補遺：春水が残した 15 冊のノート』今井出版.
- ◇田邊祐司 (2024).『日本人は英語の発音をどう学び、教えてきたか：英語音声教育の小通史』研究社.
- ◇山田昌宏 (2024).『折々の言葉 (傘寿を迎えて)』山田昌宏.
- ◇田中正道 (2024).「義姉から届いた円本漱石集」『「漱石と広島」の会 会報』20, 1.
- ◇保坂芳男 (2024).「東京府立第一中学校の外国語教育に関する研究：日本人・外国人英語教師に焦点を当てて」『英学史研究』57, 35-56.
- ◇保坂芳男 (2025).「東京府立第一中学校の英語教育に関する研究：川田校長時代 (明治 42 年度)以降に焦点を当てて」『東日本英学史研究』24, 16-38.
- ◇馬本 勉 (2025).「英文資料に見る宮島案内の史的研究(3): 明治・大正期の名所案内を比較して」『宮島学センター年報』8, 8-27.

会員の皆様にお詫び

ニューズレターNo.108を2024年2月にお届けしてから1年以上もニューズレターの発行が滞り、会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。加えて、2024年12月には契約先サーバの突然の休止に伴い、支部ウェブサイトの公開がストップしてしまいました。以来今日に至るまで、皆様への通信が滞っておりましたこと、まことに申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。

2024年に開催した支部総会・研究例会のご報告は、本ニューズレターNo.109 & 110 (合併号)に掲載しております。また、ウェブサイトにつきましては、再開の目途が立ちましたので、順次、次のサイトにこれまでのコンテンツを掲載して参ります。

<https://eigaku-chushi.sakura.ne.jp/>

ご心配をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。2025年度には、心機一転、これまで滞っておりました通信を活性化させ、いっそうの情報共有と研究の促進に努めたいと存じます。引き続きご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2025 年 4 月 10 日 支部長 馬本 勉

**令和 7 年度の支部総会・第 1 回 (通算 91 回) 研究例会は、
2025 年 5 月 31 日 (土)、安田女子大学で開催します。**

日本英学史学会中国・四国支部ニューズレター No.109 & 110 (合併号)

2025 年 4 月 10 日発行

発 行 日本英学史学会中国・四国支部 (代表 馬本 勉)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562

県立広島大学 生物資源科学部 英語研究室内

電話: 0824-74-1725 (馬本研究室直通)

e-mail: eigaku.chushi@gmail.com

ホームページ <https://eigaku-chushi.sakura.ne.jp/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部